

# 瑞穂町議会初の事業評価制度導入

## 討議事項をピックアップ

### 【狭山池上流部整備計画事業(調査)】

評価結果 C

A:1名 B:4名 C:4名 D:3名 E:2名

狭山池上流部で新規就農者の方がひまわり畑を作り、オイルを生産し販売するなど、少しずつ成果が見え始めている。

国や都の補助金を得るために380万円かけて調査委託することは必要な行為であったと思うが、その結果、総費用便益費が0.11となっている。これは、開発しても効果が非常に薄いということを示している。

調査したことで次の課題が見えたことは効果があったと思う。

### 【新規就農者確保事業】

評価結果 B

A:3名 B:7名 C:3名 D:1名 E:0名

新規就農者には5年間は都から150万円の助成金が交付されるが、町側からの経済的支援はない。それでこのまま営農できるかは疑問だ。

新規就農者の中には収穫した野菜の洗い場などに苦勞されている方がいると聞いている。農機具の保管場所や洗い場設置などへの支援はあってもよかったのではないか。

後継者不足の農家もあり、農業全般や財源的なものも含めれば、町の対応は妥当だったと思う。

### 【子育て世代包括支援センター】 (通称:ゆりかごステーション)

評価結果 A

A:11名 B:3名 C:0名 D:0名 E:0名

全ての妊産婦のところに保健師が直接訪問し、さまざまな不安を受け止めたり、適切なアドバイスを送ることは有効な施策である。

福生市の助産院と連携した産後ケア事業も瑞穂町が西多摩で初めての導入となった。切れ目のない子育て支援策として高く評価できる。

### 【フューチャースクール】

評価結果 C

A:1名 B:2名 C:6名 D:3名 E:2名

フューチャースクールに参加した生徒の方が、参加しなかった生徒より成績の落ち込みが大きい。こうなることを危惧する声以前よりあった。しっかりと原因を分析し対策を講じるべきであった。

毎年1000万円以上の経費をかけても学力の向上が見られない。費用対効果から効果のあった学習サポーターを強化させるべきだった。

単に成績だけでなく、所得の低い家庭の児童・生徒に学校以外のところで学ぶ場所を提供する機会を与えることも大切だ。

- 各常任委員会で評価する事業を抽出する。
- それぞれの委員会で一つの事業について討議を重ね情報共有を図る。
- 全体会を開催し、各委員会で討議の内容を委員長が報告し、各事業についてそれぞれ議員間討議を経て、14名の議員(議長・監査委員除く)が評価シートに記載。その後、記載した14シートの総合計を委員会の評価結果として議長に審査結果を報告。

## 事業評価の流れ

議会を変える、議会が変わる〜チーム議会へ  
 今回の決算特別委員会では、30年度事業の中で注目すべき事業を点数化で評価する方式を導入しました。これは、議会が町長の提案に対して決定するという議決機関としての機能を強化し、評価の判断の根拠を町民の皆さまに示すとともに、議員個々ではなく「議会の意思を町側に示す」ことを目的とするものです。

### 総務産業建設委員会

評価結果

- 防犯パトロール B
- 狭山池上流部整備事業(調査) C
- 新規就農者確保事業 B

### 厚生文教委員会

- 子育て世代包括支援センター A
- フューチャースクール C
- 町独自の学力調査 B
- 特定健康診査・特定保健指導 B

#### 【評価】

- A:目標達成、ほぼ達成。
- B:達成に向けて具体的成果がみられる。
- C:一定の成果がみられ始めている。
- D:目標までにはなお課題が残されている。
- E:目標達成までに向けた具体的展開が今後の課題である。

